

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 26 年 2 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 2 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,660 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。5.1%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,838 円（伸び率 4.4%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,403 億円（伸び率 1.5%）、薬剤料が 4,247 億円（伸び率 6.3%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 514 億円（伸び率 21.7%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん1枚当たり 薬剤料	処方せん1枚当たり 薬剤種類数	1種類当たり 投薬日数	1種類1日当たり 薬剤料
実数	5,461 円	2.92 種類	21.1 日	89 円
伸び率（%）	+5.2	+0.4	+2.1	+2.6

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬（3,497 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）196 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 891 億円（伸び幅 35 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 47 億円（総額 556 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~13）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,497 億円 （+196 億円）	21 循環器官用薬 （891 億円）	11 中枢神経系用薬 （556 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（443 億円）
0 歳以上 5 歳未満	42.8 億円 （▲0.97 億円）	44 アレルギー用薬 （15.4 億円）	61 抗生物質製剤 （10.6 億円）	62 化学療法剤 （8.05 億円）
5 歳以上 15 歳未満	102.0 億円 （+2.74 億円）	44 アレルギー用薬 （45.0 億円）	61 抗生物質製剤 （17.4 億円）	62 化学療法剤 （11.9 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,271 億円 （+30 億円）	21 循環器官用薬 （281 億円）	11 中枢神経系用薬 （249 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（165 億円）
65 歳以上 75 歳未満	856 億円 （+78 億円）	21 循環器官用薬 （271 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（130 億円）	11 中枢神経系用薬 （95 億円）
75 歳以上	1,226 億円 （+88 億円）	21 循環器官用薬 （337 億円）	11 中枢神経系用薬 （202 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（144 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,838 円（伸び率 4.4%）で、最も高かったのは石川県（10,981 円（伸び率 1.8%））、最も低かったのは佐賀県（7,442 円（伸び率 3.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは山梨県（伸び率 9.2%）、最も低かったのは石川県（伸び率 1.8%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 514 億円（伸び率：21.7%、伸び幅 92 億円）（→P.36）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	50.1%	-
薬剤料ベース	12.1%	+1.5%
後発品調剤率	57.4%	+3.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	32.4%	+2.9%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.36~37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+21.7%	+25.8% （70 歳以上 75 歳未満）	+8.2% （0 歳以上 5 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	12.1%	13.3% （65 歳以上 70 歳未満）	6.8% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~39）

年齢区分 （→P.36~40）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	458 億円 （+81 億円）	21 循環器官用薬 （118 億円）	23 消化器官用薬 （84 億円）	11 中枢神経系用薬 （51 億円）
0 歳以上 5 歳未満	3.61 億円 （+0.17 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.19 億円）	61 抗生物質製剤 （0.98 億円）	44 アレルギー用薬 （0.72 億円）
5 歳以上 15 歳未満	9.16 億円 （+1.34 億円）	44 アレルギー用薬 （4.07 億円）	61 抗生物質製剤 （2.16 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.51 億円）
15 歳以上 65 歳未満	167 億円 （+27 億円）	21 循環器官用薬 （38 億円）	44 アレルギー用薬 （28 億円）	23 消化器官用薬 （26 億円）
65 歳以上 75 歳未満	116 億円 （+23 億円）	21 循環器官用薬 （39 億円）	23 消化器官用薬 （22 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（13 億円）
75 歳以上	162 億円 （+29 億円）	21 循環器官用薬 （41 億円）	23 消化器官用薬 （35 億円）	11 中枢神経系用薬 （23 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	803 円	1,132 円（岩手県）	628 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+20.8%	+33.8%（山梨県）	+14.6%（山形県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	50.1%	65.6%（沖縄県）	41.5%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	12.1%	15.9%（鹿児島県）	9.4%（徳島県）
後発医薬品調剤率	57.4%	69.8%（沖縄県）	50.9%（徳島県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	32.4%	44.6%（沖縄県）	27.2%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

(1) 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 26 年 2 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。

(2) 表章期間

- 平成 16 年 10 月調剤分からデータは収集しているが、伸び率の分析を主眼としているため、統計表上の表章期間は平成 17 年 10 月以降とした。